

いものであり、そのための努力がなにより大切なことであるが、政策立案者を含め多くの人々が、核戦争の結果についてできる限り正しい知識をもつことも必要であろう。JSC でも話題になったが、目下、SCOPE/ICSU が核戦争の影響評価の作業をしつつあり、1985年にその報告がまとめられることになっているので、その結果をみたくて検討することとし、当面 WCRP としては計画案に盛り込まれているエアロゾルや微量気体の放射過程に関する研究を推進することによって寄与することを考えている。

JSC-V には、新しく N.-A. Phillips (NOAA) と P.J. Webster (前 CSIRO, 現 Penn. State Univ.) がメンバーとして加わり、C.E. Leith (NCAR) と J.D. Woods (Keel Univ.) が退いた。今回の委員会を最後に J. Houghton, D. Lal, C. Lorius が退き、次回から J. Mason, G.A. McBean, R.P. Sarker がメンバーとして参加する予定である。また、Houghton 議長の退任に

伴い、本年4月から J. Mason が議長の任にあたることになった。JSC-V にはメンバーの他に、ICSU から T.F. Malone と J. Mason, WMO-CAS から、W. Bohme、その他、各作業委員会の議長、L. Bengtsson, V.E. Suomi、その他専門家として N. Untersteiner, G.P. Kurbatkin, R. Fleming (国際 TOGA Project Office 主任)、R.A. Schiffer (ISCCP Project 主任) が出席した。

なお、上記報告は全議題についての概要ではなく、国際協同研究計画として最近進展しつつある部分にしぼられている。全般については近く出版される Report of the Fifth Session of the JSC を御覧いただきたい。また、JSC-V へ出席するに先立ち、WCRP Plan の draft について多くの関係各位から貴重なコメントをいただき、会議では大いに参考にさせていただいた。謝意を表したい。

## 京都大学超高層電波研究センター共同利用研究の公募について

当センターが滋賀県甲賀郡信楽町に昭和56年度より建設中の MU (Middle and Upper Atmosphere) レーダーが、いよいよ今年度完成の運びとなりました。これに伴い、本年10月より一般公募による当センターの共同利用研究を開始します。

共同利用研究の中心的設備となる MU レーダーは我が国最初の中層・超高層大気観測用 VHF 帯大型レーダーであり、昭和58年度より部分的運用を開始しています。同レーダーは送信周波数 46.5 MHz、尖頭送信出力 1 MW のモノスタティック・パルスレーダーであり、475本の直交三素子八木アンテナとその各々に接続された固体送受信機によるアクティブ・フェーズドアレイを構成しています。この方式を用いることによって、高速度のアンテナビーム走査やアンテナの分割使用といった、従来の大型レーダーにない自由な使用が可能となっていま

す。

現在は完成時の3/4の規模で運用中であり、高度3~20 km の対流圏・下部成層圏と高度60~90 km の中間圏領域の観測が行われています。MU レーダーはハードウェアはほぼ完成していますが、ソフトウェア開発の多くの部分が今後の研究課題として残されており、実験的な観測が行われているにすぎません。多くの研究者の参加による共同利用が望まれます。他に共同利用に供される設備としてはアイオノゾンデ、TSS 端末等があります。

利用を希望される方は、下記に申請書類等が用意されていますので御問い合わせ下さい。

連絡先 〒611 京都府宇治市五ヶ庄

京都大学超高層電波研究センター事務局  
TEL. 0774-32-3111 (内線 3330)